

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|------------|-----|--------|------------|
| ○事業所名 | 富山市恵光学園 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年12月16日 | | ～ | 令和6年12月27日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 39人 | (回答者数) | 33人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年12月16日 | | ～ | 令和6年12月27日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 15 | (回答者数) | 14 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年3月5日 | | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 【単独通園を行っている】 園生活の中で食事や排せつ、衣服の着脱など生活習慣の自立に向けて日常生活動作の支援を行っている。毎日通園であるため、子ども一人ひとりに合った経験を積み重ねることが出来る。また、医療的ケア児も含め、様々な障害児が共に集団で活動している。 | ・月1で専門職の訓練や子どもの発達に合わせてグループをわけて、集団活動を行っている。 ・子どもの伸ばしたいところ等、保護者のニーズも聞きながら一方的にならないように取り組んでいる。 | ・他クラスとの交流の機会を増やす。 ・隣接の保育園との交流保育の機会を増やす。 ・外部のボランティア・慰問等を行うことで、様々な経験の機会を子どもたちに増やしていく。 |
| 2 | 【家族支援】 保護者への支援を重視し、早期に発達課題を発見し、適切な支援を行うことで、将来の成長に繋がられるように家族支援を行っている。 | ・月に1回は保護者会を行い、保護者同士の交流の場や研修会等を開催している。 ・希望制できょうだい児支援やペアレントトレーニングを行った。 ・個別指導を月1回行い、チェックリストをもとにお子さんへの課題目標を決めて保護者とともに取り組んでいる。 | ・保護者支援に必要なスキルや知識を研修などに参加する。 ・保護者同士の交流(他クラス・仕事をしている人等含め)の機会を増やす。 ・直接支援場面の観察や参加等を行い、相談援助等の支援を行っていく。 |
| 3 | 【多職種連携】 多職種の職員がいることで、すぐに相談ができ連携が取れる。また、様々な事業や専門職がいるため、学びや知識の幅が広がる。 | ・OT、ST、PTが月1～2回各クラスに入っている。 ・普段の療育でのアイデア、支援方法をクラス職員で話すだけでなく、様々な専門職に意見を聞き、療育に取り入れている。 ・子どもの支援方法を考える時、多職種で連携をとるようにしている。 | ・療育後のカンファレンスを行い、次回の活動に繋げる。 ・各検査等を必要に応じて行い、評価を保育士と共有する。 ・月に数回、他事業、専門職を含んだ学習会を設けたり、他機関から学ぶ機会を設ける。 ・連絡帳や支援計画の共有をし、情報のやりとりの中で支援の一貫性を保つ。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 【施設環境】 開園当初から比べると、様々な事業ができたことで空き教室や訓練室、教員等をしまふスペースが足りていない。そのため、訓練室やスヌーズレン、相談室がないため、毎度部屋の設定が必要になり時間を要する。 | ・富山市の建物となるため、改築やリフォームが難しい。 ・一クラスあたりの子どもの人数を分散し、利用人数を増やしたいが空き教室がないため難しい。 ・定期的に害虫駆除の業者が入るが、木造のため隙間から害虫が入ってくる。また、安全面のため日中は換気がしにくいいため、ほこりが溜まりやすい。 | 建物の改築やリフォーム それぞれの環境が設定できるような部屋数が必要。 放課後等デイサービスひかりのようにスヌーズレンの部屋や感覚遊具の部屋があり、療育生活する場と分けてあるとよい。 物を整理できる場所(十分な広さの場所)があるといい。 |
| 2 | 【医療的ケア児や園児の受け入れ】 医療的ケア児の受け入れ人数には、医ケアの内容により看護師数と受け入れ人数に限りがある。また、看護師が急遽出勤できなくなった場合、医ケア児の受け入れが難しい。 | ・医療的ケア児を受け入れる際に、スコア表の提出が必要であり、点数によって必要な看護師数が定められている。そのため、看護師数の確保や多く雇用することは難しい。また、医師が常勤ではないため、急な医療的ケア内容の変更ができないことや医師の指示がないことで、看護師への責任も重大である事で、雇用に結びつかない面もあり、かかりつけ医との連携が重要である。 | ・受け入れの際に、医療的ケア内容について保護者や医師からの聞き取りをしっかりと行い、連携を図る。 ・医療的ケア児についての研修や学習の充実化を図る。 ・適宜、看護師補充を行っていく。 |
| 3 | 【リソースの制限】 子どもの人数に対しての職員数は十分満たしているが、当番や係等で業務時間が足りていない。 | ・研修や学習会の機会、療育準備等の時間をもちたいが、当番や係、休憩時間の確保等で時間を持つことが難しい。 ・国基準の子どもに対する職員の人数は十分に満たしているため、現在の職員数を増やすことは難しい。 | ・ICTの導入等による業務の効率化や削減を図る事で、業務改善を行い、時間や人員確保に努めていく。 ・ |